

べっぷの海辺にぎわい創生協議会（第9回） 議事録

日 時 平成30年5月10日（木） 10:00～11:30
会 場 別府市役所5階 大会議室

（出席者）14名

竹内委員、中山委員、阿南委員、奥村委員、尾田委員、尾野委員、安波委員、ニコラス委員（代理：渡邊氏）、鉄田委員、上谷委員（代理：豊田氏）、野口委員（代理：高山氏）、和田委員、猪又委員、大野委員

1 開 会

（事務局）

- ・委員19名のうち14名の出席により、設置規約第8条の規定により、会議の成立を報告

2 協議会委員紹介

- ・委員の変更について

国土交通省九州地方整備局別府港湾・空港整備事務所長 上谷 修 氏
大分県土木建築部港湾課長 野口 孝則 氏
大分県別府土木事務所長 和田 敏哉 氏
別府市共創戦略室公民連携課長 大野 高之 氏 に変更

3 議 事

（1）平成29年度 収支決算報告並びに監査報告

（事務局）

- ・平成29年度の決算報告

（上谷委員 代理：豊田氏）

- ・監査結果の状況報告

（質疑応答）

- ・なし

（2）平成30年度 歳入歳出予算（案）について

（事務局）

- ・予算案について説明

（質疑応答）

- ・なし

（協議結果）

原案のとおり承認する。

(3) 社会実験の実施状況、経過報告

(事務局)

【シーサイドかまくら de 鍋プロジェクトについて】

・2月17日～3月18日の期間で実施したが、2月28日の暴風被害によりスタートームが崩壊し、その後の営業を断念する結果となった。

利用状況や予約状況、アンケート結果を説明。新聞やテレビ取材でも取り上げられ、好評であった。

【ビーチバレースクール in 別府餅ヶ浜ビーチについて】

・3月21日に餅ヶ浜ビーチで開催予定であったが、雨天のため別府アリーナに会場を変更。約140名の参加があり、デフビーチバレーの普及、聴覚障がい者との交流を目的に開催。

【べっぴんの海岸みまもり隊の活動状況について】

・今までの活動状況を報告

【社会実験の総括について】

・H28、H29で行った社会実験の概要を説明

海辺の利用ニーズや可能性を確認、課題の整理

(質疑応答)

【シーサイドかまくら de 鍋プロジェクトについて】

(竹内委員)

・冬の海辺ににぎわいを作るという目的で学生と考えながら実施した企画であったが、若い世代が関わって行ったこともあり、アンケート結果を見ても、利用者も20～30代を中心に集まっている。ライトアップを行ったことで幻想的な空間を作り、人が見に集まり、中で鍋を食べられることを知り、より人を呼び込む力となったのではないかと思う。マスコミ取材もあり、話題性もあったが、残念ながら暴風によって途中で終了となったが、今後利用者の増加が予測される状況であった。今回の実験により、ある程度コツをつかめたと考えている。

(猪又会長)

・予約の状況は、市内・市外どちらの方が多かったのか？

(事務局)

・市内が6割、市外が4割となっている。

(猪又会長)

・若い世代が多かったとのことですが、青年会議所として意見があればお願いしたい。

(ニコラス委員 代理：渡邊氏)

・個人的には、別府の竹細工を利用して素敵だなと思う。かまくらという雪を思い浮かべるので「たけくら」などネーミングを考えてもいいかなと思う。

(尾野委員)

- ・会社で予約をしていたが、残念ながら暴風での被害により利用できなかった。寒い冬の海辺に人を集めるという難しい課題にデザインの力で実現できた点は、そのアイデアとデザインの力に感銘を受けた。今年、国民文化祭があり、アニッシュ・カプーアという有名な芸術家がある。その時期は別府アートマンスの時期でもあるので、そういった文化系のイベントとリンクして広報すると有効ではないかと思う。

【ビーチバレースクール in 別府餅ヶ浜ビーチについて】

(事務局)

- ・あいにくの雨で室内での開催となったが、市内の小学生や聴覚障がい者、日本代表の選手が参加し、コミュニケーションを取りながらバレーの体験ができた点は有意義なものであったと思う。

【べっぴんの海岸みまもり隊の活動状況について】

(竹内委員)

- ・最初は市の職員が多かったが、だんだん認知され地元の方の参加が増え、人数が増えだしている。隊としての成長を感じているところであり、これが持続することを願う。

(中山委員)

- ・自治会の中で、元気な方に隊員証を配布し、最寄りのSPA ビーチだけでも参加をお願いしており、参加者が増えたようである。ガス会社等の企業もあるので近隣の企業にも配布していただけると、より参加者が増えるのではないかと思う。

(阿南委員)

- ・自治会の役員会の中でも周知をしており、私も数回参加したが、残念ながら自治会のメンバーの参加は少ないようであった。自治会には、ある企業から地元貢献としてなにかできないかといった提案があっているところであり、自治会としても海岸沿いの清掃活動は必要であると考えているので、連携して活動できればいいのではないかと思う。

(事務局)

- ・行政主導から民間に定着してきており、非常に嬉しく思っている。1月の活動では部活動で海岸を利用していた団体が急遽参加してくれ、海岸を綺麗にすることへの意識が広がっていることを実感しているところである。

【社会実験の総括について】

(尾田委員)

- ・2年間の社会実験を踏まえて、社会実験としてまだ継続する部分はあると思うが、最終的な着地点を明確にしておく必要がある。闇雲に社会実験をしても意味がない。これからは海と人をつなぐ仕組みづくりを担っていく若い世代のプレーヤーを育成していく必要がある。その点も踏まえながら社会実験をしていってほしい。

(安波委員)

- ・スタードームに関しては、千灯明とコラボレーションすることもできるのではないかという印象を受けた。観光協会でも火の海祭りやクリスマス花火ファンタジアを海岸沿いで行うがやはり天候の心配はあり、イベントという面ではリスクが高い。イベントに頼るだけでなく、鉄輪地獄地帯公園の遊具のような公共的な整備をし、日常的な利用を促進しなければ本当のにぎわいにはつながらないのではないかと思う。

(4) 平成 30 年度の取組み（社会実験等）について

(事務局)

【ビーチバレー大会について】

- ・8月に餅ヶ浜海岸にて実施予定

【ビーチスポーツフェスタについて】

- ・「極寒ビーチスポーツフェスタ 2017 in べっぷ」に続くイベントとして、ビーチサッカーやタグラグビー、サップヨガ等を盛り込んだイベントを餅ヶ浜海岸で行う。

【BBQ、鍋について】

- ・昨年度行った内容を踏まえ、継続性・事業性等の検証を行うため、運営方法等を変更して実施予定。

【べっぷの海岸みまもり隊について】

- ・今年度は、毎月第3日曜日に実施。

【今後の協議会について】

- ・当初、平成 29 年度までの予定であったが、社会実験を継続実施し検証を行うため、本協議会を存続したい。
- ・社会実験・イベントは主体とする委員を中心に企画・実施し、協議会は報告の場として開催。

(質疑応答)

(猪又会長)

- ・平成 30 年度も協議会を存続することから、皆様には今後も委員として職務をお願いしたい。

(大野委員)

- ・継続の方向性については、民間事業者の力を借りて継続していく方法を模索していく必要があると考えている。

(尾田委員)

- ・べっぷの海岸みまもり隊に関しては、田ノ浦ビーチでは、年に数回トヨタやホンダが従業員とその家族で海岸清掃をしているので、そういった企業と一緒に活動することでもっと広がるとではないかと思う。
- ・昨年の健康フェスタはレッドブルジャパンに協賛していただき、今回のビー

チスポーツフェスタに関してはムラサキスポーツに協賛をしていただく予定である。まずはスポット的に企業に参加してもらって、それをもとに大分の企業には積極的に参加ができるような仕組みにできたらいいのではないかと考えている。

- ・プレイヤーの育成の問題は田ノ浦ビーチで我々が行っている活動でも課題となっており、今回のビーチスポーツフェスタでは企画の段階から小中学生の意見を取り入れながら企画を行っている。特に今回は親水性をテーマに掲げ、イベントを行いたいと考えている。リヤカーカフェも行う予定であるが、青年会議所と一緒にできればと思う。

(阿南委員)

- ・イベントに関しては積極的に進めていくべきであると考えているが、付近に住宅もあり、いろいろな意見はある。特に駐車場やゴミの問題に関しては十分に配慮して開催をお願いしたい。

(安波委員)

- ・イベントに関しては観光協会でたくさん開催しているが、付近の駐車場では対応できないため、シャトルバスを出すしかないと考える。

5 その他

(事務局)

- ・次回協議会については、報告の場として開催する予定なので、おそらく年度末となる予定であるが、また調整し決定したら案内する。

6 閉会